



撮影データ

撮影日時 2014年10月8日(水) 20:33  
露出 1秒 ISO 800  
カメラ Nikon D7000  
光学系 タカハシ TOA-130  
1000mm  
撮影システム タカハシ NJP で追尾  
撮影地 浜松市中区 西遠女子学園

2014年10月8日に全国各地で見られる皆既月食が起こった。皆既食では、月が本影の中に完全に入り込む。しかし、皆既食中の月は真っ暗になって見えなくなるわけではなく、「赤銅色」と呼ばれる赤黒い色に見える。地球のまわりには大気があり、太陽光が大気の中を通過する際、波長の短い青い光は空気分子によって散乱され、大気をほとんど通過することができない。一方、波長の長い赤い光は散乱されにくく、光が弱められながらも大気を通過することができる。これは、朝日や夕日が赤く見えるのと同じ理由である。また、大気がレンズのような役割を果たし、太陽光が屈折されて本影の内側に入り込む。このかすかな赤い光が皆既食中の月面を照らし、月が赤黒く見える。この日の皆既月食では雲に阻まれた地域もあったが、浜松市中区では雲が薄くなった時をねらって月食写真を撮ることができた。当日は、西遠女子学園天文地学クラブの生徒と月食観望会を行いながら撮影した。(今村守孝)